

介護等体験実習 の報告

コミュニケーション能力

石橋 晃大

(史学・文化財学科3年)

私が実習した施設は就労支援A型という形態で、利用者は知的障害や発達障害、精神障害をもつ方々でした。活動としては、商品の収集や査定、梱包などの作業を利用者さんと一緒に行うことが主でした。

5日間の実習で一番有益だったのは、利用者の方々に対するスタッフの接し方でした。すなわち、話を聴き、応答するというコミュニケーション能力です。利用者の中には自分の話を聴いてほしいという方がいて、その方とスタッフとのやりとりを見た際に気づいたのは、相槌をしっかり打ち、共感したうえでその話を広げたり、深めたりするなど、特に聴く力が非常に高いと感じました。教師を目指す私にとってとても参考になりました。

私も5日間を通して利用者の方とのコミュニケーション能力について向上させていったつもりでした。しかしスタッフの方や利用者の方はかなり助けていただいた部分も多く、本当の能力を身につけるためにさらに努力する必要を感じました。

施設代表者と利用者の方との個別面談に記録係として同席させていただきました(モニタリング)。その中に、周りの人間関係に困っているという方がいました。代表の方は「無理に関わらなくていい」とはっきり伝えました。どうやったら良好な関係を作ることができるかばかり考えながら聴いていた自分は、その対応に驚きました。この事業所には様々な状況(障害やその程度)の利用者の方がいるので、その状況に応じた内容、伝え方が必要だと後から教えていただきました。また、面談では相手にスッキリしてもらって終わるべきだと聞いて、本当にその

通りだなあと感じました。

私は今まで相談する立場でしたが、教師として相談を受ける立場になることを考えると、話の進め方などいろいろ配慮することが必要だと気づきました。これからは日常生活でも意識してコミュニケーション能力を高めていきたいと思います。

特別支援学校での学び

船瀬 あかり

(国際言語・文化学科3年)

私の活動は奉仕活動(除草作業など)とともに小学部6年のクラスでの授業観察や児童との交流でした。2日間の体験実習で学んだことは3つあります。

第一に、児童の主体的な気づきを待つことの重要性です。ある児童が自分の机を故意に倒しました。その時、私は倒れた机を戻そうとしました。しかし先生から「(机が倒れて使えないことが)不便だと思ったら自分で元に戻すから、そのままよい」と教えられました。児童が自分で考えたり、思ったりして行動すること、そしてそれをせかさず待つことの重要性を学びました。漢字の練習でも同様です。新しく学んだ漢字を少しずつゆっくりと書けるようになる過程を見守りました。

第二に、特別支援学校独自の授業があることを知りました。特に「遊び」という授業に驚きました。知識を増やすことだけでなく、「遊び」も勉強の1つであることを学びました。また、1時限目は毎日「体育」でした。先生方に尋ねると、「将来、職業に就くときに体力がないと困るから」とのことでした。先のことを見据えた授業の組み方をしていることを学びました。

第三に、挨拶の大切さです。特に朝の挨拶です。実習校では児童・生徒の登校を職員全員で出迎えます。2日目に参加させていただきました。児童・生徒と目を合わせ、こちらから笑顔で挨拶すると、どの子も挨拶を明るく元気に返してくれました。私も嬉しくなると同時に、これも児童・生徒についての

観察なのだと気づきました。

児童への接し方について非常に勉強になりました。個人の成長スピードに合わせた指導や寄り添いが重要だと学びました。

